

「霧島市立中津川小学校の横瀬棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

霧島市立中津川小学校

2 学年・人数

3年生から6年生（計17人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

平成28年4月11日 総合的な学習の時間（本校体育館）

平成28年9月12日 総合的な学習の時間（本校体育館）

平成28年10月17日 総合的な学習の時間（本校体育館）

平成29年3月6日 総合的な学習の時間（本校体育館）

（2）発表の日時・場所

平成28年4月16日 藤まつりオープニングイベント（和気神社）

平成28年9月24日 保育園・地区公民館合同秋季大運動会

（本校校庭）

平成28年10月23日 牧園地区文化祭（霧島国際音楽ホール）

平成29年3月18日 龍馬ハネムーンウォーク（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

横瀬棒踊り（よこせぼうおどり）

（2）由来

横瀬棒踊りの起源は、江戸時代中期、摂津国の大社の祭司が霧島神宮改築の時に奉納した踊りといわれている。それを明治初期に横瀬地区の有志が五穀豊穡を祈願するために伝承，奉納していたが，青年層の減少により途絶えたため，平成10年に保存会・後援会を組織し，現在に至る。

（3）構成等

踊り手18名（6名を1組とする），歌い手4名で構成され，白はちまき，ゆかた，白ももひき，わらじ，たすき掛けで五色の幟を立てて踊る。踊り手が鎌，木刀を勢いよく打ち合わせる音は厄を払い，無病息災・五穀豊穡を祈るためと伝えられている。

5 保存会や地域との連携の具体

平成10年に組織された保存会と連携し，平成14年から学校での教育活動の一環として伝承活動に取り組んでいる。具体的には，3年生以上の児童が総合的な学習の時間に保存会の方々の指導を受けながら，棒踊りの起源・由来や踊りの所作等について学習する。年間4回の練習，藤まつり，大運動会等，発表の場では保存会，保護者の協力を得て，道具の準備，着付けを行っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地域に伝わる郷土芸能「横瀬棒踊り」を教育活動の一環として活用することで地域への誇りや愛着，年長者への尊敬・感謝の念を育てることができると考える。具体的な取組の工夫として以下の点が挙げられる。

- ・ 年長者から年少者への伝承・・・上級生が下級生に教える場の設定
- ・ 郷土芸能を広く知らせる場の設定・・・各種イベント等での披露
- ・ 地域と保護者の連携・・・保存会メンバーから保護者への伝承

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【保存会メンバーによる指導】



【和気神社「藤まつり」での発表】



【合同運動会での発表】



【牧園地区文化祭での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

○ 横瀬棒踊り保存会

子どもたちが熱心に棒踊りの練習に取り組んでいる姿を見て、感心するとともに、心強く思っている。以前は地域で定期的に練習し、年長者が青年に教える姿があったが、現在は、それも途絶えてしまい後継者がいないことに不安を感じる。また、学校の授業だけでは練習回数が足りないことや小学校を卒業すると棒踊りをする機会がなくなるのも課題だと思う。今後も小学校と協力しながら伝統を後世に伝えていきたいと思う。

○ 中津川小学校6年生男子

僕は、3年生のときに上級生から踊り方を教えてもらった。その頃と比べると上手に踊れるようになってきたと思う。これは上級生や保存会の方のおかげだと感謝している。年々、人数が減ってきているので、このままでは棒踊りをする人がいなくなるのではないかと心配だ。僕が大人になっても棒踊りは続いてほしい。そのためにも将来は指導する立場になりたいと思う。